

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都目黒区五本木 1-12-13
園名	アスク上目黒保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・国旗に興味を持つ

<テーマの設定理由>

来年度4月からバイリンガル園になるためクラス別でも取り組みやすく、子どもたちも外国語を意識するのに良いと考えたため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする

- ・世界地図などを準備して、日本の位置はどこか疑問を考える・見つける
- ・講師の母国の位置と国名を確認し子どもたちと見つけてみる
- ・日本の国旗を見ている、日本に何があるか考えてみる（食べ物や事象、言葉等）
- ・講師の母国の国旗も見ている。そのデザインの意味や背景を問う
- ・他の講師たちの母国の国旗も確認して・どんな国なのか興味を持てるように聞いてみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

国旗の絵や 図鑑 地球儀、地図 カルタ、パズル、世界一周ゲームなどの玩具

- ・国の名前・どんな国 事象等があるか考えられるように

自分の国の国旗をデザインしよう（紙・色鉛筆等）

- ・色の意味や国の形をイメージできるような配慮
- ・デザインの意味を話せるような場所

【3 歳児実施分】

問いを考える：

- ・国旗や他の国の文化に興味を持つ。

探究活動の様子：

11 月には、アメリカと日本の国名や特徴について、イラストカードを使って学びました。まず、日本の特徴として相撲を紹介したのですが、子どもたちはあまりピンと来ていない様子でした。相撲やフットボール、そしてアメリカや日本のカードを渡され、部屋に飾ることになり、そこから国名や文化について少しずつ理解を深めていきました。イラストカードを通じて、視覚的に異文化に触れることができ、子どもたちは興味を持ち始めたようです。

12 月には、さらに多くの国旗に触れる機会を作るために、スイス、パキスタン、カナダ、アメリカの国旗を取り入れ、遊びを通して、国旗を覚える楽しさを体験しました。遊びを交えた学びによって、子どもたちは楽しみながら多くの国の国旗に触れ、世界についての認識を広げることができました。

1 月からは、国旗を描くという創造的な活動に取り組みました。白い国旗を与えられ、自由に好きな色や形を描くことに挑戦しました。子どもたちは、自分の好きな色を使ったり、知っている国旗を模倣して描こうとする姿が見られました。この活動を通じて、国旗というテーマを身近に感じながら、自分の創造力を発揮する機会を得ました。また、英語講師と一緒に、塗るだけでなく、すくわくプログラムの時間以外でも、自由に国旗を制作し、さらに楽しさを感じることができました。

2 月と 3 月には、オリジナルで作成した国旗を他の子どもたちの前で発表する時間を設けました。この発表の際には、簡単な英単語を使って自分の国旗について紹介する挑戦をしました。子どもたちは、英語で簡単な単語を使って自分の国旗を説明し、自己表現の楽しさを感じることができました。また、発表の場では、友達の国旗を見ることで新たな学びがあり、他の文化への興味がさらに深まりました。この活動を通じて、子どもたちは異文化理解を深めるとともに、英語での表現力も育むことができたと感じています。このように、国旗を通じて異文化に触れ、創造的な活動や英語での表現を楽しむことができました。今後も子どもたちが世界や文化について学び、表現する力を育む活動を継続していきたいと思います。

ふりかえり（保育士の気づき）：

子どもたちは講師とのやりとりを楽しみながら、英語の発音に積極的に取り組む姿が見られました。国旗製作では、覚えた国旗を描いたり、自由な発想で表現する楽しさを感じていました。すくわくプログラム時間外でも、塗り絵や世界の図鑑、地球儀を使い、自然に日本以外の国々にも興味を持つことができました。これらの活動を通じて、異文化への理解を深め、学びの楽しさを実感することができました。今後も、子どもたちが世界や英語に興味を持ちながら学びを深められるよう、さまざまな工夫をしていきたいです。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

- ・ 国旗や他の国の文化に興味を持つ。

探究活動の様子：

11 月には、アメリカと日本の文化の違いを知ることがきっかけに、子どもたちが他の国々にも興味を持ち、積極的に質問する姿が見られました。特に、国旗や関連するイラストカードを使ってクイズゲームを行うことで、子どもたちは楽しみながら学ぶことができました。他の子どもたちが選んだ答えに影響されることもありましたが、それぞれが自分なりに考えながら参加し、学びを深めることができました。

12 月には、国旗のデザインに焦点を当て、子どもたちはしっかり観察して、英語でその特徴を表現することに挑戦しました。日本の国旗の赤と白、アメリカの国旗の赤線、白線、星の数について理解を深めました。また、イラストカードを使って国の特徴をゲーム感覚で学ぼううちに、アメリカやドイツなど、さまざまな国について質問する姿も見られ、他国に対する興味がさらに広がっていきました。

1 月以降は、国旗の塗り絵を通じて自由に色を塗ったり、デザインを楽しみました。白い国旗に自分の好きな色や形を描き、創造力を発揮してオリジナルの国旗を作成しました。また、覚えている国旗のデザインを描こうとする姿が見られ、自由な発想で表現することを楽しんでいます。

オリジナルの国旗を作った後は、みんなの前で発表する時間も設けました。発表の際には、英語講師と一緒に簡単な英語を使って自分の国旗について紹介することに挑戦し、子どもたちは自分の考えや創造を言葉で表現することを楽しみました。子どもたちは異文化について学びながら、表現力を高め、英語を使う楽しさも感じることができました。遊びの中ではジェンガを使用し他児と協力してピラミッドを作る様子もみられました。今後もこのような活動を通じて、子どもたちの世界への理解を深め、英語で表現する力を育んでいきたいと考えています。

ふりかえり（保育士の気づき）：

イラストカードを使って国旗や国の文化に興味・関心を持つことができました。簡単なゲームを通して知識を深めていくことができ、オリジナル国旗作成へつなげていきました。

【5歳児実施分】

問いを考える：

- ・国旗や他の国の文化に興味を持つ

探究活動の様子：

この期間を通して、子どもたちはさまざまな国々の文化や特徴について、ゲームやイラストカード、英語を使った活動を通して積極的に学びました。11月にはアメリカと日本の文化に焦点を当てて、アメリカに関連する場所や特徴を学ぶ際に、沖縄をアメリカの一部と答える子どもの姿があり、興味を「持ちながら学びを深める姿が見られました。特に最初はゲームやイラストカードを使って、アメリカや日本の文化を理解することができました。これにより、子どもたちは楽しみながら学ぶきっかけを得ることができました。

12月には、国の特徴について英語で話す挑戦をしました。さまざまな国旗を見て、それぞれの国に共通する特徴や違いについて気づき、他の子どもたちと意見を交換する場面がありました。子どもたちが自分の考えを英語で表現し、他の子どもと共有しようとする姿が印象的でした。

1月にはさらにステップアップして、国旗の特徴を英語で表現することに挑戦しました。また、自分で新しい国旗をデザインし、その創造力を発揮しました。2月には、自分がデザインした国旗を他の子どもたちの前で発表し、共有することで、自己表現の力や自信を育むことができました。3月には講師が用意したアルゼンチン、カナダ、スイス、日本、パキスタンの国旗に色塗りを行い、実際に手を動かしながら学ぶことで、国旗についての理解をさらに深めました。国旗カルタを使って、色違いの国旗を見つけて疑問を話し合う姿が見られ、子どもたちは興味深く探求心を持って学びました。また、図鑑を使って他の国について調べようとする姿勢や、スウェーデンのオーロラについて話し合うなど、学びの幅が広がっていることが感じられました。また普段の遊びの中ではジェンガを使用し他児と協力してピラミッドを作る様子もみられました。

このように子どもたちは英語を使いながら、さまざまな国の文化や特徴について学び、知識を深め、他の子どもたちと意見を交換することで、コミュニケーション力や自己表現力も育まれました。

ふりかえり（保育士の気づき）：

子どもたちは、国旗へ興味を深める中で特に国旗カルタを楽しんでいる姿が多くみられました。国旗を遊びながら学ぶことで、自然と国々の特徴や文化に対する関心が高まりました。カルタを通じて国旗を覚え、そのデザインや色合いについて話し合う中で、子どもたちは国々に対する興味を広げ、さらに深い学びへと繋がっていきました。また、その国の特徴や背景を調べようとする姿が見られ、世界の図鑑や地球儀を使って、自ら情報を探しに行く姿が育ちました。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都目黒区五本木 1-12-13
園名	アスク上目黒保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

・音楽絵本を創ろう

<テーマの設定理由>

・12月に子どもたちが選んだ絵本を劇遊びとして発表する劇場ごっこを予定している。その中で表現方法を広げることに繋がられることができたかと考える。また劇場遊びの後にも表現遊びを継続して楽しめるようにしていきたい。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：ヒーリング音楽をきいてイメージを表すもの

12月：「くれよんのくろくん」を読み心情、情景に対してどんな音がつくか。

異年齢児での劇場ごっこに向けた絵本に合わせて音を探る。

1月：3匹のこぶた、ブレーメンの音楽隊、赤ずきんの絵本の読み聞かせの後、絵本の場面や登場する動物に合わせて音を鳴らしてみる。楽器の紹介。

2月：絵本の内容とイメージした音、楽器を探す。楽器を絵本の内容に合わせてどのように鳴らしたいか考えてみる。

3月：絵本の内容、シーンに合わせて音をつけてみる。他の絵本を選んだチームと共有する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

楽器（木琴/鉄琴/レインスティック/鍵盤ハーモニカ/タンバリン/ウッドブロック/アゴゴウッド/カスタネット/トライアングル/すず/マラカス）

- ・講師がピアノを弾く・イメージしやすい音源を用意・グループで活動できるスペースの確保
- ・音楽絵本の作成などの準備（紙・色鉛筆・クレヨン・他 子どもたちの発想が叶うもの）
- ・他グループの作品を鑑賞し、感じたことを発言しあえる時間とスペースの確保する

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：

- ・絵本の情景や登場人物の気持ちなど、イメージしたものを身近なものや楽器で表現してみようとする
- ・絵本を読み聞かせ、情景や登場人物の気持ちなど、感じたことや疑問に思ったことも問いとして設定する

探究活動の様子：

子どもたちはヒーリング音楽を聴きながら、言葉や絵を使って自分のイメージを表現する活動に取り組みました。音楽を通して、色や線、音で感じたものを伝えようとする姿が見られました。12 月には劇場ごっこ準備が本格化し、異年齢のグループごとに絵本に合わせて音を探す活動を行いました。この活動では、担任と一緒に子どもたちが考えた劇遊びに、講師のピアノや歌声がヒントとなり、表現方法が広がりました。

3 歳児クラスでは、絵本「三匹のこぶた」をテーマに音探しを行いました。子どもたちは楽器の音や声、オーガンジースカーフを使って、絵本の各シーンを表現しようとしていました。木のおうちのシーンでは、ウッドブロックやカスタネットを使って音を鳴らし、楽器の素材に注目する姿が見られました。また、オオカミが息を吹くシーンでは、実際に子どもたちが息を吹きかけるなど、創造的な表現を楽しんでいました。

さらに、レンガの家のシーンでは、木琴や鉄琴を使って音階を表現し、ドレミの音階と一致させることを子どもたちと一緒に発見しました。この過程で、絵本に出てくるレンガの家が 8 段積み上がっていることに気づき、その段数とドレミファソラシドの音階が一致することに気づきました。子どもたちは、絵本の内容を音楽を通じて深く理解し、表現する力を高めていきました。

ふりかえり（保育士の気づき）：

子どもたちはさまざまな楽器に興味を持つ姿が見られ、音楽を使って表現することを予想していましたが、実際には声やオーガンジースカーフなど、より自由な発想でのびのびと表現遊びを楽しむ姿が印象的でした。このように、物理的な道具にとらわれず、音楽を感じ取りながら自由に表現する力を育てていることがわかりました。

今回は「三匹のこぶた」を中心に音楽絵本作りを行い、子どもたちは物語と音楽を融合させる楽しさを体験しました。今後も子どもたちが表現することを楽しめるように、興味や発達に合わせた絵本選びや、楽器などの音に触れる機会を大切に、さらに音楽や表現活動を深めていきたいと考えています。このような活動を通じて、子どもたちの創造力や感性を引き出し、表現する楽しさを感じてもらいたいです。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

- ・絵本の情景や登場人物の気持ちなど、イメージしたものを身近なものや楽器で表現してみようとする
- ・絵本を読み聞かせ、情景や登場人物の気持ちなど、感じたことや疑問に思ったことも問いとして設定する

探究活動の様子：

きっかけ作りとしてヒーリング音楽を聴き、言葉や絵を使って自分のイメージを表現する活動が行われました。子どもたちは色や線、言葉を使って自分の感じたものを表現しようとする姿が見られました。

12 月には、劇場ごっこの準備が本格化し、異年齢のグループごとに絵本に合わせて音探しを行いました。子どもたちは担任とともに考えた劇遊びを進める中で、講師のピアノや歌声からヒントを得て、表現方法を広げることができました。

1 月からは「三匹のこぶた」と「ブレーメンの音楽隊」をテーマに音探しを行い、講師から楽器の紹介を受けながら、子どもたちは楽器の素材に興味を持ち、質問する姿が見られました。初めは登場する動物に楽器を関連づけて表現しました。たとえば、ろばにはウッドブロック、犬には太鼓、猫にはマラカス、鶏にはマラカスやトライアングルを使いたいという意見がありました。特に鶏にトライアングルをイメージした理由は、その声が大きいからだと考えられたのです。

2 月には楽器の種類を増やし、絵本の場面に合わせた表現がより豊かになり、楽器以外にも歩く音や大きな声など、体を使った表現にも挑戦しました。この時点で子どもたちはさらに創造力を発揮し、音楽を通じて表現する幅が広がりました。

3 月には、より多くのシーンに音をつけて表現する挑戦が行われました。子どもたちは、好きな楽器や使ってみたい楽器を選んで表現し、場面ごとに異なる音を生み出しました。たとえば、寂しい時には静かに、急いでいる時には速く、泣き声は大きくするなど、場面に応じた音を考えました。落ち込んでいるシーンではフレームドラムやレインスティックを使って静かな音を出し、泥棒を驚かす場面では大きな音を出すなど、感情に合わせた音の使い方を楽しみました。

また、講師から音の速さや音程の高低について投げかけられると、楽器によってその表現が異なることにも気づきました。最後のシーンでは、登場人物たちの表情がにこやかであることに気づいた子どもたちが、明るい音に合わせてメロディーを口ずさむ姿が見られ、その流れで歌詞作りを始めました。歌詞には動物の鳴き声を使い、最後には体を揺らしリズムに合わせて楽しむ姿が見られました。

リズムに合わせて体を動かすことに戸惑いを感じる子どもたちには、オーガンジースカーフを渡すと、体を動かして楽しむことができました。これらの活動を通じて、子どもたちは音楽を通じて感情を表現する力を養うことができました。

ふりかえり（保育士の気づき）：

子どもたちは自分たちで絵本を選び、音探しを楽しむことができました。さまざまな楽器に興味を持ち、楽器の名前やその素材に対しても関心を深める様子が見られました。絵本の場面に合わせて音や動きで表現しようとする姿は、とても楽しそうで、創造的な表現をする力が育っていることが感じられました。

また、メロディーを口ずさむ子どもたちの姿が見られ、その流れで歌詞をつけることにも挑戦しました。これにより、音楽と言葉を結びつける楽しさを実感したようです。今後も、子どもたちの小さな気づきや「やってみよう」とする姿を大切に、その意欲を伸ばしていきたいと考えています。この活動を通じて、子どもたちの創造力や表現力をさらに豊かにしていくことができるよう、引き続き支援していきたいです。

【5歳児実施分】

問いを考える：

- ・絵本の情景や登場人物の気持ちなど、イメージしたものを身近なものや楽器で表現してみようとする
- ・絵本を読み聞かせ、情景や登場人物の気持ちなど、感じたことや疑問に思ったことも問いとして設定する

探究活動の様子：

最初に、ヒーリング音楽を聴いて、子どもたちは自分のイメージを色や線、言葉で表現しようとする姿が見られました。子どもたちが自由に表現するきっかけとなりました。

12月には、劇場ごっこの準備が本格的に始まり、異年齢のグループごとに絵本に合わせて音探しを行いました。子どもたちは、担任と共に考えていた劇遊びに講師のピアノや歌声をヒントに加え、表現方法を広げることができました。

1月には、「ブレーメンの音楽隊」の絵本を使って、子どもたちが好きな場面を話しながら、登場する動物に楽器の音を当てはめてみました。この段階で、楽器を使った音の表現に興味を持ち始めました。2月には絵本が「三匹のこぶた」と「ブレーメンの音楽隊」の2種類に増え、楽器の種類も増やしました。子どもたちは絵本の内容に合わせて音を探し、その過程で初めて触れる木琴や鉄琴に気づき、形状や音色について話し合いました。木琴の音は暗く、鉄琴の音は明るく綺麗だという表現が見られ、音の違いに敏感に反応しました。

2月からは、子どもたちは好きな絵本を選び、グループごとに音探しを行いました。3月に入ると、楽器の音を一通り鳴らしてみるところから始まり、ほぼ全てのページに音をつけようとする意欲が見られました。「三匹のこぶた」では、歩く音をカスタネットやタンバリンで表現したり、煙突から落ちる音をフレームドラムやレインスティックで鳴らしました。わらの家、木の家、レンガの家にはそれぞれ異なる楽器（レインスティック、アゴゴウッド、フレームドラム）を使い、リズムや速度を変えて表現しました。

「ブレーメンの音楽隊」では、雨の音をレインスティックで表現し、明るい場面ではタンバリンや鉄琴、トライアングルで音をつけました。子どもたちは、お互いに意見を出し合い、最後のシーンでは「みんなで一緒に鳴らすのはどうか？」という提案をしました。また、スープを混ぜる場面では、楽器の穴にバチを入れて動かすことで、演奏方法とは異なる形で表現しようとしていました。

最後には、各絵本ごとに子どもたちが発表しあい、それぞれが考えた音の表現を楽しみながら共有しました。この活動を通して、子どもたちは音楽を使って物語の中で表現する力を高め、創造的な考えを深めることができました。

ふりかえり（保育士の気づき）：

子どもたちは自由な発想の中で、それぞれの絵本に音を当てはめて表現する楽しさを感じることができました。普段触れる機会の少ない楽器を講師が持ってきたことで、楽器への知識が深まり、子どもたちの他の楽器や音楽への興味にもつながった様子が見受けられました。特に、同じ場面に対して異なる楽器を使って表現しようとする場面では、子どもたちが話し合いを行い、協力してアイデアをまとめる姿が見られました。

このように、さまざまな音を知ることができ、表現しようとする姿勢を大切にすることで、子どもたちの創造力や協力する力をさらに伸ばしていきたいと感じています。今後も、子どもたちが音楽を通して自分の感性を表現できる機会を提供し、その楽しさを深めていくことを大切にしていきたいです。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都目黒区五本木 1-12-13
園名	アスク上目黒保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・『とぶ』にはどんな種類があるのかを考えてみる

<テーマの設定理由>

- ・とぶ動物やどんな形状をしているか考えたり

とぶ前の人間の姿勢を観察し分析できるように子どもたちの問いを受け止めて動きを実際に試してみたいと感じ実行する思いが沸き上がる

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる。

- 11月 跳ぶから連想される生き物や乗り物を連想して、なりきって体を動かす。
- 12月 引き続き跳ぶ生き物になりきって跳ぶ動きに挑戦する
- 1月 自分で設定した目標のところまで跳んでみる
- 2月 跳び箱を使って飛び降りたり、跳んでみることに挑戦する
- 3月 跳び箱を使って身体の動き方を知る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・『とぶ』種類によって自身の身体はどこをどう使っているのか話し合いする配慮・準備

◎図鑑◎動画視聴など

絵や表を作成し 特徴をまとめる、イラストを描く

◎紙・色鉛筆・クレヨン・作成できるスペース

- ・とぶ動物や人間の行動で示したりしてを種類分け3. 4.5 歳児発達に即して方法を変える

(高く跳ぶ、遠くに飛ぶ、羽で飛ぶなどできるスペースの確保・また遊具・道具(縄跳び、巧技台、ボール、ハードル、とびとびバランス、つないでラダー、他飛ぶもの)を用意)

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：

『とぶ』にはどんな種類があるのかを考える

とぶ姿勢を考え実際にとんでみる

探究活動の様子：

この活動では、子どもたちが「跳ぶ」という動きを通じて、体の使い方を学びながら創造的な思考を膨らませていきました。最初は「跳ぶ」という行為から、カエルや飛行機、鳥などさまざまなものをイメージし、その動きを身体で表現してみることで、楽しさや工夫の重要性を感じとっていきました。

1 2 月には、うさぎやカエルになりきって実際に跳ぶ動きを楽しみながら、体を使って感覚を身につけました。これは、体の動きに対する感覚を養い、跳ぶことに対する自信をつける第一歩となりました。

次に、1 月には「どこまで跳べるか」を考え、実際に身体を動かしてみることで跳ぶ距離を伸ばすための方法を試しました。前に跳ぶか、上に跳ぶか、どちらの方がより遠くに跳べるのか実験しながら、体の動かし方を工夫しました。また、腕の位置や足の使い方を意識する事で、より高く遠くへ跳べるようになることに気づきました。特に、腕を後ろに伸ばし、足をまげて踏み込む動きは跳躍力を高めることを実感し、子どもたちはどんどん自信をもって挑戦できるようになりました。マットに置いた印を目標に少しずつ距離を伸ばすことで、さらに跳ぶ楽しさを感じることができました。

そして3 月には講師が2 回来ていただき、跳び箱を使ってさらに高度な挑戦をしました。跳び箱を跳ぶためには必要な手の位置や足の広げ方を学び、はじめはゆっくりとしたペースで体の動きや感覚を確認しながら跳ぶことができました。慣れてくると、フォームを確認しながらしっかりと踏み込むができるようになりました。このように、跳ぶ動きの基本から応用まで段階的に学び、身体を使って成長する過程が見て取れました。

この活動を通じて子どもたちは単に体を動かす事の楽しさだけでなく、身体の使い方を意識する重要性や、試行錯誤を重ねることで成長していく過程を体験しました。

ふりかえり（保育士の気づき）：

跳ぶことから連想することを広げることからはじめ、身体を動かすことを楽しみながら伸ばしていきました。遊びの中でも跳ぶ動きへ繋がることがあったので、子どもたちの興味や関心を深め、安全面に配慮しながら活動内容を工夫していきたいと思います。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

『とぶ』にはどんな種類があるのかを考える

とぶ姿勢を考え実際にとんでみる

探究活動の様子：

子どもたちは「とぶ」という動作を通じて身体の使い方を学び、自己表現を楽しみながら成長しました。最初は跳ぶことへの興味を引き出すために想像力を活かし、身体を動かしながらさまざまな跳ぶものをイメージしました。例えば、うさぎやカエル、飛行機やヘリコプターなどを思い浮かべ、その動きを身体で表現することで、身体の使い方に対する理解が深まりました。また、講師からの「好きなフルーツがある」という見立てを使って、実際に跳ぶ事で目標を設定し、目指すものがある楽しさを感じました。

1 2 月には、跳ぶための体の使い方に関心を持って、足を伸ばすだけでなく、足を程よく曲げることで高く跳べることに気づき、跳ぶ動きの技術を深めました。

短縄を使った跳び方では、タイミングやリズム感を養い、跳び方のコツをつかみました。さらに、前に跳ぶことや横に跳ぶことを練習することで、跳ぶ力を伸ばすための方法を学びました。

1 月には、ドッジボールや縄を使った遊びを通じて、反応速度やバランス感覚を養いました。ボールをよけるために瞬時に跳ぶ練習をし、跳ぶための腕や足の使い方を発見しました。自分で目標を設定し、少しずつ距離を伸ばしていく姿がみられました。

3 月には講師が 2 回来ていただき、跳び箱を使った活動に挑戦し、手の位置や足の開く角度に工夫を重ねながら、跳ぶ技術を向上させました。跳び箱を飛び越えることができるようになると、子どもたちは自分の成長を実感し、技術や体の使い方に対する自信を持てるようになりました。段階的な挑戦を通じて、子どもたちは目標を達成する喜びを感じ、身体の使い方の理解が深まりました。

この一連の活動を通じて、子どもたちは身体を使う楽しさを実感し、自己表現の幅を広げながら、跳ぶ力や技術を向上させました。

ふりかえり（保育士の気づき）：

「とぶ」から連想される物を広げることからはじめ、実際に体を動かしながらとぶために必要な動きを学びました。普段の遊びの中で楽しんでいるドッジボールのボールを跳んでよけたい、という子どもたちの思いを汲み取り広げることができました。今後も子どもたちの関心のあるものをきっかけに遊びや活動を深めていきたいと思います。

【5 歳児実施分】

問いを考える：

『とぶ』にはどんな種類があるのかを考える

とぶ姿勢を考え実際にとんでみる

探究活動の様子：

今回の活動を通して、子どもたちはさまざまな跳び方に挑戦し、飛ぶ動きの技術を段階的に身につけました。11月には、カラスやスズメ、飛行機、ヘリコプターなど、さまざまな跳ぶものをイメージして遊びながら、跳ぶために必要な動きを身体で表現しました。遠くに跳ぶためには助走が必要だと気づき、室内では十分なスペースが足りなかったため、次回は外で試してみる意欲がわきました。

12月には、跳ぶ高さや距離を伸ばすことに挑戦し、走ってから跳ぶことで、より遠くに跳べることに気づきました。また、短縄やスキップジャンプを使った練習を通じて、前や上にジャンプする方法を試しました。両足や片足で跳ぶ違いを感じながら、跳んだ後に印をつけることで、自分の成長を実感しました。

1月には、子どもたちからのドッジボールのボールを跳んでよけたいというアイデアが出て、ボールをよく見ながら跳んでよける練習をしました。その後、マットにマーカーを置いて、手をおしりに置いた状態で跳ぶことからはじめ、手を後ろにバンザイすることで、より大きく跳べることに気づきました。たくさん跳べる子が他の子に「手を後ろにして思いきり跳んだ」と教え、その方法を試すことで、みんながより大きく跳べるようになりました。

3月には講師が2回来ていただき、跳び箱を使った活動に挑戦しました。カエルが跳ぶ方向を考えたり、ジャンプの際に手をどう使うか工夫しながら、跳び箱に挑戦しました。最初は手の位置やジャンプのフォームを確認しながら跳び、徐々に慣れてくると、5段の跳び箱に挑戦する子どもも現れました。最初は恐る恐るでしたが、少しずつ自信を持って挑戦する姿がみられ、達成感を感じることができました。

この一連の活動を通じて、子どもたちは身体を使う楽しさや跳ぶことの面白さを実感し、跳ぶ力や自信を高めることができました。

ふりかえり（保育士の気づき）：

他児との関わりの中で目標を設定して挑戦する楽しさ、喜びを感じながら身体の動きに対する理解を深めていくことができました。はじめは慎重に他児の様子を観察していた子も、他児の言葉や繰り返し挑戦する機会があることで挑戦し、自信に繋げることができました。また、できることが増えたことも子どもたちの喜び、活動の発展に繋がっていきました。

